

みなとみらい産官学ラウンドテーブル第25回公開セミナー

平成27年7月10日(金)『みなとみらい産官学ラウンドテーブル第25回公開セミナー』が横浜国立大学成長戦略研究センター主催により、横浜ランドマークタワーにおいて開催されました。

今回は地理的にも文化交流的にも遠いと感じられるアラブ・イスラム圏に関し、留学経験もあり、専門のアラビア言語学語学研究を行ってこられ、宗教・文化・生活習慣にも造詣の深い横浜国立大学 国際戦略推進機構 吉田昌平教授により「遠くて遠い？アラブの世界」というテーマで御講演頂きました。

日本にとってアラブ・イスラム圏は、1970年代頃は産油国のイメージは何となくあっても、危険やテロと結び付く事はなかったのですが、近年アラブあるいはイスラムという宗教に対するイメージは悪化しているのではないのでしょうか。この40年でイスラム圏を取り巻く世界が変わったからです。そこには欧米諸国により特定のイメージが繰り返し発信されたという背景があるようです。

数千件のハリウッド映画等の映像を分析した研究者によれば、砂漠・ハーレム・空飛ぶ絨毯・野蛮なシーンがアラブ世界として差別的に描写され、世界中の観客が子供時代から観ることでイメージが形成されたとの指摘もあります。また有名なエドワード・サイード(コロンビア大学等で文学の教授を勤めたパレスチナ系アメリカ人研究者)の『オリエンタリズム』でも、西洋における中東への誤ったイメージは欧州諸国による「植民地主義の装置」との論争が提起されました。

講演では挨拶のしかたから始まり、サウジアラビアから横浜国大への留学生によるネイティブのアラビア語やクイズ形式でのオーディエンスのアラブ世界の理解度を確認するやりとりなどを交え言語・宗教・生活習慣・政治情勢について多面的な知識が披露されました。

- ① ラマダーンとは、断食を意味するアラビア語？⇒No: イスラム暦で9月との意味。
- ② アラブ諸国の数は？⇒アラブ連盟諸国は現在22ヶ国(イラン・イラク・サウジアラビア等中東諸国以外にパキスタンなども含む)。
- ③ イランはアラブ諸国？⇒民族的にはペルシャ系、言語はインド・ヨーロッパ語族。
- ④ ムスリム人口の半分以上はアラブ人？⇒最大のイスラム人口はインドネシア(約8億人超)。

アラブの定義も伝統的な中東地域から、近年では北アフリカサハラ砂漠以北(モロッコ・チュニジア・アルジェリア・スーダン等)の他、中央アジア(アフガニスタン・パキスタンからカザフスタン等)へと拡大していますし、中国にも自治区エリアを中心に8千万人を超えるムスリムが存在します。

話題は産業としてのハラール食(イスラム法で合法とされる食材・処理方法)・化粧品・医薬品や国際政治・石油パイプライン利権を背景としたIS(イスラム国:アフガン紛争に端を発し、アメリカCIAの武器・資金援助、外国人義勇兵のムジャヒディーン参加など)にも言及され、アラブ・イスラムについて様々な側面からの理解が深まった講演となりました。

最後のメッセージとして、TV報道等だけではアラブ・イスラム世界についての理解は深まらず、自分で情報を集め判断し、実際にイスラム圏の人々と接する事で、彼らの思考・生活様式を知り、交流を拓げる事を奨め、講演は締めくくられました。

聴講者は約50名と盛会でしたが、今回は講演内容が多岐にわたり過ぎたため、残念ながらフロアとの質疑の時間が取れず終了した点は、今後のセミナー運営課題となります。

【参加者のアンケートから】

参加者50名の内41名からアンケートの回答があり、大半の方から、「期待した内容である」、「参考になる」との評価を頂きました。

以下の意見を頂きました。

- ・アラブを正しく理解するヒントを頂きました。関心を持って生きていきたいと思います。
- ・イスラムの概念を学べた。
- ・米国についての推察が面白かった。話の意外な展開がよかった。
- ・世界の直面している問題の根源がわかったような気がします。
- ・アラブについて思っていたこととは違ったことが分かった。

【セミナー会場の様子】

